

川越町の子どもたちの学力向上に向けて

～全国学力・学習状況調査の結果報告～

令和5年 10月24日

川越町教育委員会

川越町立川越南小学校

本年4月、小学校6年生及び中学校3年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果概要をお伝えします。川越南小学校では、結果からわかる、子どもたちの「強み」「弱み」等の傾向をとらえ、具体的な指導に反映していきます。つきましては、保護者の皆様には、家庭生活や生活習慣の見直しに向けてご協力をお願いいたします。

なお、この調査は学力の特定の一部分を測るものであり、学力のすべてを測るものではないことをご理解ください。



1. 学力・学習状況調査結果

(1) 各教科結果

□全体の傾向

国語

全国比（全国平均正答率）を上回っており、正答数分布グラフから中央値（※1）が全国より1.0ポイント高くなっている。

評価の観点（※2）別に見ると、「知識・技能」の項目は4.3ポイント、「思考・判断・表現」の項目は2.4ポイント、全国比を上回っている。

学習指導要領の内容（※3）別に見ると、「話すこと・聞くこと」の項目は5.4ポイント、「読むこと」の項目は0.8ポイント全国平均を上回っている。「書くこと」の項目は1.7ポイント全国平均を下回っている。

算数

全国比（全国平均正答率）を上回っており、正答数分布グラフから中央値（※1）は全国と同じである。

評価の観点別に見ると、「知識・技能」の項目は2.8ポイント、「思考・判断・表現」の項目は2.6ポイント、全国比を上回っている。

学習指導要領の内容別に見ると、「数と計算」の領域で3.2ポイント、「変化と関係」の領域で5.4ポイント、「データの活用」の領域で8.2ポイント全国比を上回っている。「図形」の領域で1.7ポイント、全国比を下回っている。

※1 中央値

小さい数値（あるいは大きい数値）から順に並べたときに真ん中に来る数値

※2 評価の観点

学習指導要領において、児童生徒が学校教育の中で身につけるべき力「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」に対応した形で評価する際の3つの観点

○「知識・技能」・・・各教科で身につけるべきとされている知識やスキル

- 「思考力・判断力・表現力」・・・課題や問題に向き合って解決していく力や友だちと協働しながら問題解決の糸口を見つけていく力、自らの思いを表現していく力
- 「主体的に学習に取り組む態度」・・・児童生徒自身がいかに学習を調整して、知識を習得するために試行錯誤しているか

※3 学習指導要領の内容

学習指導要領において、各教科に求められる内容。例えば小学校国語科であれば「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」など、小学校算数科であれば「数と計算」「図形」「変化と関係」などに分かれている。

□設問別結果から見える各教科における主な「強み」と「弱み」

	強みと弱み (強み・・・「◎」 弱み・・・「◇」)
国語	<ul style="list-style-type: none"> ◎漢字を文の中で正しく使うことができる。(＋9.7) ◎文章の種類とその特徴を理解することができる。(＋7.7) ◎インタビューの様子の記事を読み、話し合いの中での質問に対して適切な答えを選ぶことができる。(＋8.5) ◎インタビューの中で話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心をとらえることができる。(＋6.4) ◇図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。(－1.7)
算数	<ul style="list-style-type: none"> ◎ (2位数) ÷ (1位数) の筆算について、図を基に各段階の商の意味を考えることができる。(＋10.3) ◎百分率で表された割合について理解している。(＋15.4) ◎「以上」の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取ることができる。(＋15.5) ◎棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見出した違いを言葉と数を使って記述できる。(＋8.7) ◎正方形の意味や性質について理解している。(＋5.8) ◇台形の意味や性質について理解している。(－5.4) ◇高さが等しい三角形について底辺と面積の関係を言葉や数を用いて文章で表すことができる。(－5.0) ◇加法と乗法の混合した計算をしたり、分配法則を用いたりすることができる。(－5.7)

(2) 児童質問紙による生活調査結果

① 基本的な生活習慣

Q：朝食を毎日食べていますか。

・食べている児童の割合・・・全国：93.9% 川越南小学校：88.5%

Q：毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。

・寝ている児童の割合・・・全国：81.0% 川越南小学校：83.6%

Q：毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。

・起きている児童の割合・・・全国：90.5% 川越南小学校：88.5%

***本校では、就寝時刻や起床時刻が大きく乱れている児童の割合は全国と比べても少ないが、朝食を食べずに登校している児童の割合は高くなっている。**

「早寝・早起き・朝ごはん」を心がけ、規則正しい生活リズムを整えることが大切である。

② 自己肯定感

Q：自分には、よいところがあると思いますか。

・ある（どちらかといえば含む）と答えた児童の割合・・・全国：83.5%

川越南小学校：82.0%

Q：先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。

・思う（どちらかといえば含む）と答えた児童の割合・・・全国：89.8%

川越南小学校：93.4%

Q：人の役に立つ人間になりたいと思いますか。

・思う（どちらかといえば含む）と答えた児童の割合・・・全国：95.9%

川越南小学校：96.7%

***「自分には、よいところがあると思うか」の質問での肯定回答は、全国割合を下回っているが、「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思うか」の質問での肯定回答は、全国割合を上回っており、93.4%となっている。児童の自己肯定感を育むために、学校教職員が多くの児童に対して個々を認める声かけをし、その声かけが児童に届いていることが伺える。**

自己肯定感が高まっている児童は、自己を大切にすることができるとともに他者を大切にすることもできる。人の役に立つ児童の割合が全国よりわずかではあるが高くなっていることにも表れている。自己肯定感を育む取り組みを進めていきたい。

③ 地域や社会に関わる活動の状況

Q：今住んでいる地域の行事に参加していますか。

・参加していると答えた児童の割合・・・全国：57.8% 川越南小学校：73.8%

Q：地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。

・思っていると答えた児童の割合・・・全国：76.8% 川越南小学校：72.1%

***地域の行事に参加している児童の割合は全国より高く、地域に児童が根付いていることが伺える。一方、地域や社会をよくするために何かしてみたいと思っている児童の割合は全国より低い。地域や社会に対し主体的に行動したいという気持ちを育てていきたい。**

④ 学習習慣

Q：学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。（学習塾や家庭教師、インターネットで学ぶ学習も含む）

・学習時間が1時間以上の児童の割合・・・全国57.1% 川越南小学校：54.0%

Q：土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。
(学習塾や家庭教師、インターネットで学ぶ学習も含む)

・学習時間が1時間以上の児童の割合・・・全国52.5% 川越南小学校：42.6%

Q：家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。(学校の授業の予習や復習を含む)

・している(ときどきも含む)児童の割合・・・全国：70.7% 川越南小学校：63.9%

***1時間以上家で勉強している児童の割合は、平日で、54%で、休日では約43%、自分で計画を立てて勉強しているかの問いでは、肯定回答をした児童の割合は約64%といずれも全国を下回っている。「家庭学習習慣」等の取組を進め宿題以外に自主的に学習を進める習慣を身につけさせていきたい。**

⑤ 読書習慣

Q：学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。(電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)

・1日の読書が30分以上の児童の割合・・・全国：37.3% 川越南小学校：26.3%

・読書を全くしない・・・全国：24.5% 川越南小学校：32.8%

Q：読書は好きですか。

・好き(どちらかといえばも含む)と答えた児童の割合・・・全国：71.8%

川越南小学校：72.1%

***平日の学校の授業時間以外に読書時間では、30分以上読書をしている割合は小学校では約26%となっており全国を下回る結果となった。また、児童の約33%は学校の授業時間以外に全く読書をしないことが分かった。授業以外の場面で児童生徒の読書活動推進に向けて、学校図書館の効果的な利用法や家庭読書推進の啓発に向けての取組を検討していかなければならない。**

また、読書が好きと回答した児童の割合は約72%となっており、全国を上回っている。

⑥ キャリアの形成

Q：将来の夢や目標を持っていますか。

・持っている(どちらかといえばも含む)と答えた児童の割合・・・全国：81.5%

川越南小学校：75.4%

***将来の夢や目標を持っている児童の割合は約75%となっており、全国を下回っている。コロナ禍において児童に将来の目標や夢を持たせられるような取り組みが中止になっていたが、今後は実施可能な方法を探りながら取り組みを進めていきたい。**

(3) 学校質問紙の結果からみえる児童の姿

① 言語活動の充実と自分の考えを深め、表現する力を育成する取り組み

新たな学習指導要領に沿った教育活動が行われるようになり、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かし多様な人々との協働を促す教育の充実に努めることや児童の発達段階を考慮して、児童の言語活動など、学習の基盤をつくる活動を充実することが求められている。言語活動については「言語活動について、国語科を要しつつ、各教科の特質に応じて学校全体として取り組んでいますか」の問いに対して、本校は、肯定的な回答をしている。このことから、児童の学習の基盤をつくる活動として国語科のみではなく、あらゆる教科等で言語活動に取り組んでいることが分かる。「話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか」「話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」という問

いに対して、肯定的な回答をしている。指導者が学習指導要領に示された子ども達につけるべき力を意識したうえで、言語活動を取り入れた授業構成を考え、実践していることが分かる。児童質問紙にある「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」という問いに対して肯定的な回答をした児童は昨年度を上回っており、児童生徒自身も話し合い活動を行うことが、自分の学びにつながっていることを実感していることが伺える。今後も子ども達に基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育むために各教科等の中で、ねらいをもった話し合い活動等を進めていく必要があると考える。

② 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善と ICT 機器の効果的活用

「授業では、課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか」という問いに対して、肯定的な回答をしている。また「習得・活用及び探求の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか」という問いに対しても肯定的な回答をしている。学校は学習指導要領に示されている「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業実践を行っている。児童質問紙にある「これまでに受けた授業では課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」という問いに対しても肯定回答は、全国を上回る結果となっている。児童質問紙にある「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」という問いに対して、多くの児童が肯定的な回答をしており、全国を上回っている。子どもたち自身に、授業の中で、「何を学ぶか」が明確になっており、授業のふりかえりをおして、次の学習の意欲につながれているのだと考えられる。今後も川越町が大切にしている「めあてとふりかえりのある授業」を実践し、子ども達に「何を学ぶのか」という学習の目的意識をはっきり持たせたいと、授業に臨ませ、「どのように学ぶのか」を意識させた授業改善を進めていく必要があると考えている。

また、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、一人一台タブレット端末は一つのツールとなっている。「児童一人ひとりに配備された PC・タブレットなどの ICT 機器をどの程度活用しましたか」の問いに対しては、「ほぼ毎日」と回答している。また、児童質問紙にある「これまで受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器をどの程度使用しましたか」という問いでは週 3 回以上と回答した割合は全国を大きく上回っている。さらには、児童質問紙にある「学習の中で PC・タブレットなどの ICT 機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」の問いに対する肯定回答も高い割合を示し、児童生徒自身も ICT 機器の学習効果を実感しているように思う。しかし、「教職員と児童のやり取りの場面」や「児童同士がやりとりする場面」での活用頻度に対する問いに対しては、「週 1 回以上」と回答する学校も見られ、今後も教職員の ICT 活用に関する研修会を行い、どのような場面で、どのように活用することがより効果的な活用になるのか等研修を深めていく必要があると考えている。

③ 自己肯定感・自己有用感の育成（自尊感情）

「これまでに学校生活の中で、児童生徒一人ひとりのよい点や可能性を見つけ評価する（褒めるなど）取組を行いましたか」という問いに対して、肯定的な回答であり、児童質問紙においても「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」という問いでは肯定回答が昨年度を大きく上回った。この二つの結果から、指導者が、学校教育活動の様々な場面で児童の姿を見取り、「認め」「褒め」「励ます」といったことを繰り返し行っていることが伺え、児童の個性を大切にしながら、豊かな心の育成に取り組んでいることが分かる。そして、児童も指導者が自分たちのことを見てくれているという思いを持っていることが分かる。今後も引き続き児童生徒の姿を見取り、「認め」「褒め」「励ます」ことを行っていきたい。

学校教育活動において自尊感情の育成には、個々の児童生徒が学習の場面において「できた」

「わかった」という満足感や充実感を持つことや、学校生活での仲間とのかかわりの中で、認められることや受け入れられることが重要な要素になると考える。しかし、学校教育活動の中だけでは自己肯定感・自己有用感の育成は行えず、家庭や地域とともに育成していくことが重要であると考えている。一人ひとりのよい点や可能性を見つけ、よいタイミングで評価や承認を行うことが自己肯定感・自己有用感の育成につながる。今後も家庭・地域・学校が一体となって子ども達を見守りながら、成長の後押しをしていきたいと考えている。



2. 学力・学習状況調査結果の「弱み」を改善するための対策

全体を通して

全教科において、教科特有の「見方・考え方」、つきたい力を明確にし、「何を学ぶか」という必要な指導内容だけでなく、「何ができるようになるか」を重視し、そのために「どのように学ぶか」という学習過程を大切にしたい授業改善を進める。

1. 「めあての提示と振り返る活動」(目標の提示、振り返り活動)のある授業の徹底を図り、子どもたちが一時間の授業の見通しを持ち、授業の中で「できた・わかった」と実感が持てる学習へつなげる。
2. 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を行う。
3. ICT 機器の効果的な活用を探り、授業改善を行う。
4. 自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く力をつけるための指導を行う。
5. 一人ひとりの学習状況を十分とらえ、少人数による効果的な指導を行う。

国語

1. 基礎的な力をつける時間の確保

- ・漢字の定着のために、ていねいに指導できる時間の確保と家庭学習の充実を図り、定着に向けた取り組みを進める。

2. 書くことの指導の充実

- ・書く活動において、児童生徒の興味関心に応じた題材を設定し、子どもたち自らが書こうとする気持ちを高める手立てを講じ、児童が主体的に取り組めるように工夫する。
- ・発達段階に応じて「字数制限やテーマなどの条件を与えて書く活動」を、授業の中に継続的に取り入れていく。(国語に限らず他教科においても「条件を与えて書く」活動を行っていく)
- ・自分の考えを文章として書く際には、自分の考えの根拠となることを明らかにしながら書く活動を取り入れていく。

3. 読む力を育成する指導の充実

- ・小学校低学年段階での MIM-PM の取り組みを継続して行い、「読み」に対して苦手感を感じている子どもに、早期に指導を行えるようにしていく。
- ・説明文においては、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけられるような指導を行えるようにしていく。
- ・いろいろな文章や作品に出会わせるために、読み聞かせの機会を充実したり、選書コーナーを設置したりするなど、各校において読書活動や学校図書館での活動を工夫する。

4. 自分の考えをまとめる活動の充実

- ・授業における話し合いや毎時間のめあてに対するふりかえりの中で、自分の考えをまとめる活動を取り入れる。発達段階や内容に応じて、字数制限やキーワードを提示するなどの条件を与えて書かせるようにする。
- ・自分の考えをまとめたものを友だちと共有する活動を取り入れ、自分の考えと比較し、

新たな考えを知りながら、考えを深めていく活動を取り入れる。その手立てとして ICT 機器の効果的な活用を進めていく。

- ・自らの問題解決に必要な資料や情報を選択・活用し、友だちと互いに意見を出し合って自分なりの考えをまとめる活動を取り入れる。さらに、まとめたものを発表する活動につなげていく。

算 数

1. 基礎的な力をつける時間の確保

- ・基礎となる内容の定着のために、ていねいに指導できる時間の確保と家庭学習の充実を図り、定着に向けた取り組みを進める。

2. わかる授業を目指した授業展開の工夫

- ・子どもたちの生活に沿った身近な課題を見出し、児童が主体的に取り組める授業を展開していく。また、算数の時間に学習したことを日常生活の中で活用できるように工夫する。
- ・既習事項をもとにした応用問題等に取り組ませ、子どもたちが学び合う中で、その解決方法を見い出せるような学習活動を取り入れる。
- ・言葉や数・式と、図・表・グラフなどを関連付けて考える授業を取り入れる。
- ・「ふりかえり」の時間を大切にするとともに、子どもたちの理解度を測る評価問題などを適切に取り入れる。
- ・個々の子どもたちの強み・弱みを把握し、少人数による学習活動を進める。

3. 自分の考え方や求め方を説明する

- ・算数用語、算数的な表現を用いて「◎◎であるから、△△である。」の形式で記述させたり発表させたりする。
- ・ICT 機器を効果的に活用し、個々の児童の考え方や求め方を交流したり、自分の考え方をまとめたりする。



3. 川越南小学校の取り組み

(1) 全国学力調査の内容・結果の分析及び検討を授業づくりへ活かす

教職員全員で4月・8月・3月に研修会を開き、8月には問題を実際に解きながら結果を分析しています。強みと弱みを考え、それを学習指導要領と結び付けながら、日々の授業の中で、教材で弱い部分をどう扱い、授業を改善したらよいのかを考えていきます。

(2) 授業力向上に向けた校内研修の充実

様々な調査や研修の結果から読解力がどの教科においても基本であると考え、この4年間は国語科を中心とした研修を進めています。4月には今までの成果と課題をもとに職員全体で方向性と具体的な方策を理解し、1学期中の実践を考えています。8月には外部講師を招聘して全教職員で具体的な授業づくりの方法を学ぶ研修会を行いました。また全国学力調査を職員全員で実際に解き、調査の結果とこれまでの結果を詳しく分析して2学期以降の実践を考えています。また、1年を通して全員が授業を見せ合い、北勢教育支援事務所指導主事の指導助言を受けながら話し合うことでも授業力向上につなげています。

(3) 算数科における少人数・習熟度別授業の推進

きめ細かな子どもたちのニーズに合わせた指導が行えるように体制を整備しています。

低学年では、各学級に毎時間支援員が入り学習を支援しています。3・4・5・6年生では習熟度別に応じて、「じっくり」「のびのび」「どんどん」の3コースに分かれて学習を進めています。計算の単元と図形の単元でコースを変えるなど、個人に合わせて柔軟な編成を行っています。

どの学年においても、担任に授業中気付いたことを各コースの担当からフィードバックし、個々の児童の実態に合わせて、一人ひとりのつまづきに寄り添うことのできる体制をとっています。

(4) 国語科学習指導要領と結びついた「書く」「話す・聞く」活動の充実と定着

今年度の全国学力調査には説明文が出題されました。その中で今年度初めて小学校で出題されたのは「あなたならどのようにまとめますか。」という叙述から読み取ったことをもとに自分はどうかを考えるかを問う問題です。これは学習指導要領の各項目に類する「自分の考えを持つ」という内容と密接に結びついています。

これは、これまでのように資料から答えを探して書くだけではなく、自分の考えを創り出す力が必要であることを示しています。授業中に自分の考えを創り出すには、教材をまずしっかり読み取るとともに自分で新しく探したり、友達と意見を交換したり（話す・聞く）した上でそれをまとめる（書く）が必要になるということです。それを各学年でどの教材でどう扱っていくのかということを考えています。

また、学習は必ず言語を介するため、これらは全ての教科にある傾向であると考えられます。このことを全職員が意識し、「書くこと」「話す・聞くこと」に取り組んでいます。

4. 町教育委員会による手立て

(1) 少人数教育の充実

少人数での指導体制を継続し、国語科および算数・数学科を中心とした基礎的・基本的な力の向上を目指します。

(2) きめ細やかな指導体制の充実

町非常勤講師や学習支援員及びALTの配置を生かした指導のあり方をさらに充実し、一人ひとりの子どもたちが学びやすい環境づくりを進めます。

(3) 学力向上推進委員会の開催

川越町学力向上推進委員会において、各校の学力向上に向けた取組について協議・情報交流を行い、子どもたちの学ぶ力を伸ばすための授業改善を進めます。また、川越町全体で進める学力向上策について検討します。

(4) 校内研修等への訪問指導・支援

北勢教育支援事務所および町教育委員会の指導主事、学力向上アドバイザーが各校へ訪問し、学力向上に向けた校内研修への指導・支援を進めます。また、学力の定着を図るための授業のあり方について、教職員に向けた継続的な直接指導を進めます。

(5) ICT 機器を効果的に活用した授業の推進

ICT 機器を活用して、指導者と子どもたち、子どもたち同士が意見や考え方を交流しあう場面を作り上げ、主体的・対話的な授業の実現を目指します。また、ICT 機器の研修会等の校内研修への指導・支援を進めます。

(6) 家庭学習習慣及び読書活動の推進

各家庭での TV 視聴やゲームをする時間を振り返り、各校が配付している家庭学習の手引きやシラバス（授業計画）をもとに、家庭学習の定着に向けた取組を進めていきます。また、「読書旅行」や「家庭読書の日」の取り組みを推進し、小学校低学年から本に触れ合う機会を増やし、語彙量（ごいりょう）を増やしていきます。

『豊かな心』を土台とした社会で生きていく力の育成

2022 年 4 月に改定しました川越町教育基本方針で示した通り、川越町は【『豊かな心』を土台とした社会で生きていく力の育成】を基本方針としています。

『豊かな心』を培うために必要なこと（3つ）、
「非認知能力を高めること」
「個性を大切にすること」
「相手の個性を尊重すること」 を大切にし、教育活動を行います。



5. 家庭・地域へのお願い

(1) 基本的な生活習慣を定着させる

夜の就寝時刻が乱れてくる原因の一つにテレビやスマートフォンの視聴時間が考えられます。家庭内のルールを子どもたちと一緒に会話をしながら作っていただきたいと思います。また、作っていただいたルールが守られているかどうかを見届けてください。夜の就寝時刻が乱れてしまうと朝の起床時刻にも影響し、すっきりとした目覚めができなくなってしまいます。また、そのため朝食をしっかりと食べずに登校してしまうこととなります。朝食は午前中を元気に過ごすための大切なエネルギーのもととなります。

「早寝・早起き・朝ごはん」を心がけ、規則正しい生活が送れるようにしていきましょう。

生活リズムに大切な睡眠

人の成長に大切なホルモンの分泌には、生活リズムが関係します。特に大切なのが、早寝早起きと十分な睡眠時間。

小学生なら1日9時間の睡眠を！
夜10時には熟睡できていること。

睡眠不足や不規則な生活リズムが続くとイライラ、だるい、集中できない



目が朝の光を感じるとセロトニン（脳内物質）が分泌され、脳と体を目覚めさせ、こころのバランスを整えます。昼間に体を動かしてセロトニンが多く分泌されると、夜にはメラトニン（脳内物質）がたっぷり分泌され、ぐっすりとお眠ることができます。

朝ごはんは大切なエネルギー！

朝起きたときは体も脳もエネルギーが不足した状態です。よく噛んで食べることで体と脳がめざまめます。

家族で一緒に食べると、話し弾みし、一日の活動のエネルギーに！



ホップ！ (主食)	ステップ！ (主食+1品)	ジャンプ！ (主食+2品)
ごはんよりかけや つくだにをのせて	プラスする1品の例 みそ汁、味噌、卵やからど	プラスするもう1品の例 くじらのヨーグルト、など

脳のエネルギーはブドウ糖！
(ご飯やパンなどの炭水化物が分解されてできる栄養素)

(引用元：三重県健康福祉部子ども・家庭局少子化対策課発行「みえ家庭教育応援リーフレット」より)

(2) 家庭学習の習慣を定着させる・・・見守る、声をかける

子どものノートや学習したプリント等にできるだけ目を通し、「見守り・声かけ」をしていただくようお願いします。家庭学習を継続させるためには、声をかける、頑張りの過程をほめる、励ますことです。子どものやる気を引き出すことも保護者の役割です。

【家庭学習を習慣化するポイント】

《児童・生徒》

- ・毎日、決まった時間に決まった場所で勉強する。
- ・テレビ・スマートフォン等の電源を切って、集中して勉強する。
- ・机の上をかたづけてから勉強する。

《保護者》

- ・テレビやゲームを楽しむ時間や、スマートフォンを使用する時間、方法などについて、各家庭でルールをつくる。
例) 毎週水曜日は「ノーテレビ・ノーゲームデー」にする。
夜の10時以降は、携帯電話やスマートフォンを使わない。 など
- ・カレンダーに「○」を付けるなど、学習の記録を記すようにし、子どもたちの頑張りを「見える化」し、ほめる。

(3) ほめる・認める・・・自己肯定感・自己有用感を高める

今回の児童生徒質問紙の結果からも、「15%から24%程度の児童生徒が、自分には良い所があると感じられない」という状況がみられました。子ども達は個々によって得意なことや苦手なことは様々です。「家族で決めた約束が守れた」「苦手なことにも挑戦した」など、子どもが何かを継続して行ったときや、前向きに挑戦した、以前よりも進歩や成長が見えたときには、その機会を見逃さず、きちんとほめましょう。成功や失敗、順位や点数等だけに注目するのではなく、過程を大切にして、子どもの意思で行動したことを評価することが大切です。

【子どものほめ方のポイント】

- 他の子（友だちやきょうだい）と比べてほめない
- よかったことを具体的にほめる
- 結果（順位や点数等）に注目せず、努力したことをほめる
- その場ですぐほめる

(4) 家庭で読書をする時間を増やす・・・親子で読み聞かせや読書をする機会を大切にする

読書活動は、使う言葉の幅が広がり表現力が向上し、より豊かな会話につながります。いろいろな考え方に接したり、想像力を膨らませたりすることにより、共感力や発想力が生まれます。「語彙（ごい）の量と質」の違いが学力差に大きく影響しているとの指摘があります。まずは、おうちの方からの読み聞かせや、テレビの時間を読書の時間に変えることから始めましょう。また、おうちの方が読まれた本やお気に入りの本を子どもに紹介し、本に対する興味を持たせるようにしていきます。

(5) 子どもたちの『豊かな心』の育成に向けて、五つの「SHOW」で子どもと関わりましょう。

五つの「SHOW」は子どもに接する時の心得ですが、同時により良い生き方のモデルを子どもに見せることにもなります。五つの「SHOW」を心掛けた関りを通して、保護者も子どもも「非認知能力」を高めながら『豊かな心』を培いましょう。

SHOW1：コミュニケーション能力を高めましょう

コミュニケーション能力は、自主性・表現力・理解力・共感力・協調性などにつながります。そこで、ご家庭でも豊かな会話によるコミュニケーションを心がけましょう。

SHOW2：待ちましょう

子ども自身で考える力を育てるためにも、できる限り自分で考えて行動できるように待つあげてください。子どもの意欲、自主性、自立性などにつながります。

SHOW3：疑問をもつように誘いましょう

普段の生活の中で「どうして〇〇は□□なのかな?」「なぜ、△△なのかわかる?」と問いかけることも興味・関心を育てることにつながります。また、子どもの疑問には、ていねいに根気強くつきあいましょう。

SHOW4：思いやりにつながるように、家庭内のルールづくりをしましょう。

家庭内のルールづくりは、子どもの自制心・誠実さ・忍耐強さにつながることはもちろんですが、思いやりや共感力を育みます。

SHOW5：感情に任せた暴言は、やめましょう。

状況により、どうしても叱らなければならない場合もありますが、とっさに言い返したりするようなことは絶対にやめてください。その時は「6秒以上の間深呼吸」などのアンガーマネジメント、すなわち怒りをコントロールし、子どもが「なぜ、叱られたのか」を納得できるような叱り方をしましょう。

みえの学力向上県民運動

学校・家庭・地域の教育力を高めよう!

みえの学力向上

検索

